

**「令和3年度国立研究開発法人建築研究所 講演会」を開催
～最新の研究開発成果をご紹介します～
(本年度はHPからの事前申込制とさせていただきます)**

建築研究所では、研究成果や調査活動の発表を通じて、住宅、建築及び都市の各分野における最新の技術情報を広く一般の方々に提供することを目的として、3月に「建築研究所講演会」を開催いたします。

今年度は、新耐震基準40周年に合わせ、特別講演として、名古屋大学減災連携研究センター教授の福和伸夫氏をお招きし、「温故知新と転禍為福で大震災を乗り越え未来の夢を描く」と題してご講演をいただきます。

当研究所が取り組んでいる研究活動を中心に、各分野における研究開発の最新情報をご紹介します。また、会場のホールロビーでは、研究成果等をパネル展示いたします。

1. 開催概要

日 時：令和4年3月4日（金）13：00～17：40（開場 12：00）

※ 当日のタイムスケジュールは、別紙をご参照ください。

※ 本年度は事前申し込み制となっております。

会 場：有楽町朝日ホール（東京・有楽町マリオン 11 階）

参加費：無料

※ 本講演会は、建築士会CPD制度の認定プログラムです。

申込方法：参加ご希望の方は、1月18日（火）より下記HPにて事前申し込みをお願いいたします。

<https://www.kenken.go.jp/japanese/research/lecture/r03/index.html>

※ なお、政府方針等により本講演会が中止あるいは開催方法が変更となる場合は、建築研究所HPで周知すると同時に申し込みの方全員にメールにてご連絡いたします。

2. 特別講演

名古屋大学減災連携研究センター教授 福和伸夫氏

「温故知新と転禍為福で大震災を乗り越え未来の夢を描く」

プロフィール

1981年に清水建設に入社。1991年に名古屋大学に異動。工学部建築学科、先端技術共同研究センター、環境学研究所を経て、2012年より名古屋大学減災連携研究センター。2017年～2018年に日本地震工学会長、2017年よりあいち・なごや強靱化共創センター長、2020年より中部防災推進ネットワーク・会長等を歴任。専門分野は、地震工学。

産官学民の連携を図りつつ、災害被害軽減の国民運動作りに関わると共に、南海トラフ地震対策を主導。

2003年日本建築学会賞、2007年文部科学大臣表彰科学技術賞、2019年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

主な著書に「必ず来る震災で日本を終わらせないために」（時事通信社）など。



3. 一般講演

建築研究所における主な研究成果等、住宅・建築・都市分野における研究開発に関する最新の情報をご紹介します。

一般講演一覧

演 題	担当研究者
非住宅建築物における外皮性能による温熱環境を考慮した空調エネルギー評価に関する取り組み	環境研究グループ 主任研究員 赤嶺嘉彦
東日本大震災及び以降の災害における応急仮設住宅と災害公営住宅の特徴	住宅・都市研究グループ 上席研究員 米野史健
軽量鉄骨下地による非構造部材の耐震性等に関する建築研究所の最近の取組み	建築生産研究グループ 研究員 沖佑典
スラブ内地震, 海溝型巨大地震とスロー地震	国際地震工学センター 主任研究員 北佐枝子
2016年熊本地震による益城町の木造住宅倒壊分布に関する地盤要因の可能性	構造研究グループ 上席研究員 新井洋
木造による10階建て復興住宅の構造試設計	材料研究グループ 上席研究員 槌本敬大
「新耐震基準」から40年を振り返る	構造研究グループ グループ長 小山信

4. パネル展示

会場ロビーでは、パネルを展示しております。

パネル展示一覧

パネル内容	担当研究者
ディープラーニングによる鉄骨造柱脚部と定着部の被災度区分に関する検討	構造研究グループ 上席研究員 森田高市
機械学習を用いた重量床衝撃音低減量レベルの読み替え	環境研究グループ 研究員 平川侑
実大火災実験棟整備概要紹介	防火研究グループ 主任研究員 出口嘉一
ドローンを活用した各種建物調査技術の開発と社会実装への取組	材料研究グループ 主任研究員 宮内博之
木造住宅の力学性能に着目した地震後の継続使用性に関する検討	材料研究グループ 主任研究員 山崎義弘
居住者の住居費負担能力に関する研究	住宅・都市研究グループ 研究員 今野彬徳
強震観測記録に基づく鉄骨造超高層建築物の振動特性の推定に関する検討	国際地震工学センター 主任研究員 中川博人

※ 上述の内容については変更する場合がありますので、予めご了承ください。

(内容の問合せ先)

国立研究開発法人 建築研究所
企画調査課 井上
電話 029-879-0638
E-mail kikaku@kenken.go.jp

令和3年度 国立研究開発法人 建築研究所講演会

建築研究所講演会は、年に一度（毎年3月）、建築研究所の研究開発成果や調査活動の報告を通して、住宅・建築・都市分野における最新の技術情報を広く一般の方々に提供するために開催しています。

令和4年 3月4日(金) 13:00 ▶ 17:40 (開場12:00予定)

有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11F)

東京都千代田区有楽町2-5-1

参加無料

要事前登録
座席指定制

※ライブ配信も予定

プログラム

特別講演

大震災を乗り越え未来の夢を描く
温故知新と転禍為福で

13:00	開会	
13:05		理事長挨拶 理事長 緑川 光正
13:10	講演 1	非住宅建築物における外皮性能による温熱環境を考慮した空調エネルギー評価に関する取り組み 環境研究グループ 主任研究員 赤嶺 嘉彦
13:35	講演 2	東日本大震災及び以降の災害における応急仮設住宅と災害公営住宅の特徴 住宅・都市研究グループ 上席研究員 米野 史健
14:00	講演 3	軽量鉄骨下地による非構造部材の耐震性等に関する建築研究所の最近の取り組み 建築生産研究グループ 研究員 沖 佑典
14:25	休憩	パネル展示
14:40	講演 4	スラブ内地震、海溝型巨大地震とスロー地震 国際地震工学センター 主任研究員 北 佐枝子
15:05	講演 5	2016年熊本地震による益城町の木造住宅倒壊分布に関する地盤要因の可能性 構造研究グループ 上席研究員 新井 洋
15:30	講演 6	木造による10階建て復興住宅の構造試設計 材料研究グループ 上席研究員 樋本 敬大
15:55	講演 7	「新耐震基準」から40年を振り返る 構造研究グループ グループ長 小山 信
16:20	休憩	パネル展示
16:40	特別講演	「温故知新と転禍為福で大震災を乗り越え未来の夢を描く」 名古屋大学減災連携研究センター教授 福和 伸夫
17:40	終了予定	



名古屋大学減災連携研究センター教授

福和 伸夫

1981年に清水建設に入社。1991年に名古屋大学に異動。工学部建築学科、先端技術共同研究センター、環境学研究科を経て、2012年より名古屋大学減災連携研究センター。2017年～2018年に日本地震工学会長、2017年よりあいち・なごや強靱化共創センター長、2020年より中部防災推進ネットワーク・会長等を歴任。専門分野は、地震工学。

産官学民の連携を図りつつ、災害被害軽減の国民運動作りに関わると共に、南海トラフ地震対策を主導。

2003年日本建築学会賞、2007年文部科学大臣表彰科学技術賞、2019年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

主な著書に「必ず来る震災で日本を終わらせないために」(時事通信社) など。



主催・問い合わせ先
国立研究開発法人 建築研究所 企画部企画調査課
TEL.029-879-0638
<https://www.kenken.go.jp>



申し込み期限：令和4年2月25日(金)17時
左記QRコードよりお申し込みください。
定員に達し次第、受付終了とさせていただきます。
予めご了承ください。



※ 講演会の詳細は、今後、ホームページで御案内します。

※ 入場定員制限や入場時検温など、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、会場開催を予定しておりますが、政府の方針等によっては急遽中止又はライブ配信のみとなる場合がございます。